

第 **31** 期  
中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日

...for patient comfort.



# Financial Highlights

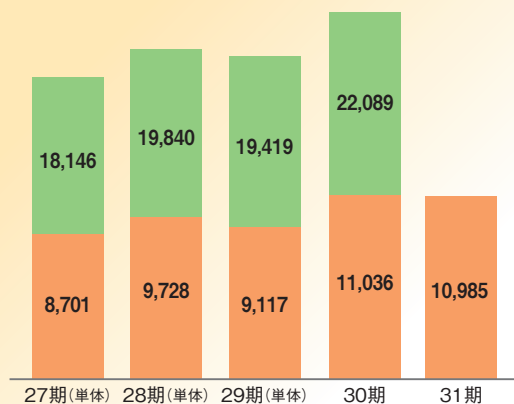
## 主要連結財務データ

※第30期より連結損益計算書を作成しております。

■第2四半期累計 ■通期

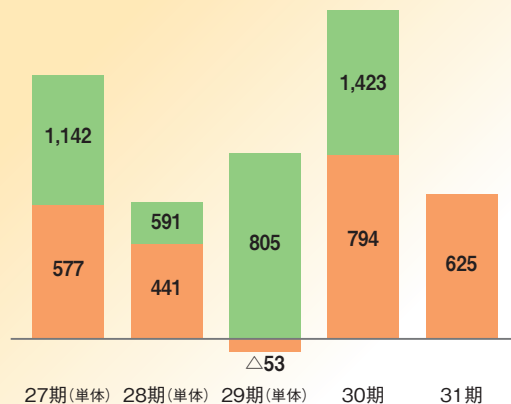
### 売上高

(単位:百万円)



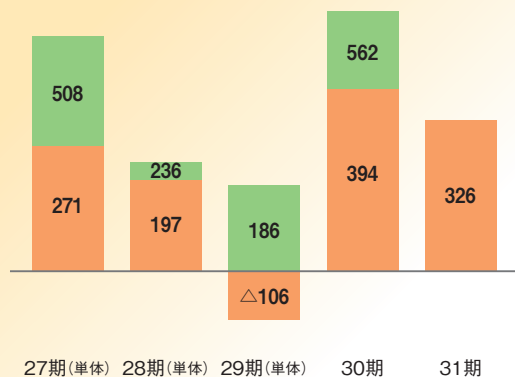
### 経常利益

(単位:百万円)



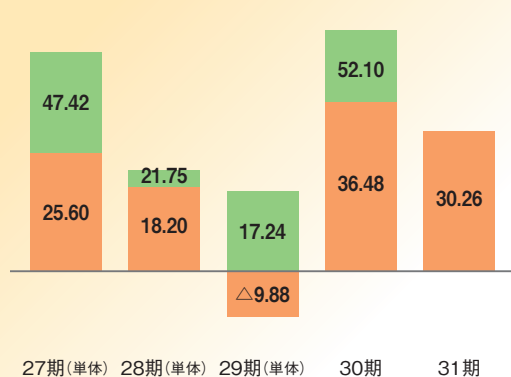
### 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



### 1株当たり四半期(当期)純利益

(単位:円)



**Q** 上半期の業績はいかがでしたか？

**A** 当上半期の業績といたしましては、売上高は109億8千5百万円、営業利益は5億4千4百万円、経常利益は6億2千5百万円、四半期純利益は3億2千6百万円となり、前年同期に比べ減収減益となりました。

主な要因としては本年4月に医療機器の公定価格である保険償還価格が引き下げられたことが挙げられます。保険償還価格の引き下げは、国の医療費抑制策などを背景とし、2年に一度引き下げが行われてきており、今回の引き下げでは、当社の主力商品である心臓ペースメーカーで12.8%と大幅な引き下げとなったほか、当社取扱商品の大部分が引き下げ対象となりました。

当社といたしましては保険償還価格の引き下げに対応するため、拡販に取り組み、全般的に売上数量を増大させたものの、価格下落の影響を吸収するまでには至らず、売上高は前年同期に比べ0.5%の減少となりました。

品目別にみると、全売上高の約5割を占めるリズムデバイスの主力商品である心臓ペースメーカーは、前年同期水準の販売数量を維持したものの、価格下落の影響により売上高は13.4%減となりました。その一方でEPカテーテルにつきましては収益性の高い製品を中心に販売数量の増大に取り組んだ結果、売上高は前年同期に比べ39.9%増となりました。また、昨年4月より子会社製品の販売を開始した人工血管におきましても、増産により供給量が増加したことにより、売上高は前年同期に比

**代表取締役社長 鈴木 啓介**

べ89.4%増となりました。

利益面では、利益率の高いEPカテーテルなどをはじめとする自社製品の構成比率が高まりましたものの、仕入れ商品につきましては、保険償還価格の引き下げ前に仕入れた原価の高い商品在庫が存在することから、売上総利益率が1.5ポイント低下いたしました。また、販売費及び一般管理費におきましては、上期に執行されなかった予算が一部ありました。

以上のことから、前年同期に比べ営業利益は26.3%減、経常利益は21.2%減となりました。さらに、特別利益として役員退職慰労引当金戻入益を計上したことから、四半期純利益は前年同期比17.1%減となりました。



### Q 下期発売予定のCRT-Dの新商品について教えてください。

A CRT-D(除細動機能付き両心室ペースメーカー)の「PARADYM(パラダイム) CRT」の発売を、第4四半期に予定しております。

リズムデバイスの国内市場は、心臓ペースメーカーについては、植込み数量は増加傾向にあるものの、販売価格の低下が続いていることから、金額規模では縮小する見通しとなっております。これに対し頻脈を治療するためのICD、CRT-Dといった医療機器については、これらを用いた治療が普及してきており、また、心臓ペースメーカーに比べて現時点では大きな価格引き下げが見込まれないことから、今後数年間は年10%を超える成長が続くものと考えております。

このような市場環境のなか、当社として懸案となっておりました、ソーリンググループ製CRT-Dの国内導入に関して

この度目途がつかしました。これにより、2007年にリズムデバイスの仕入先を現在のソーリンググループに変更してからは初めて心臓ペースメーカー、ICD、CRT-Dと主要な商品が全て揃うこととなります。

今回発売する「PARADYM CRT」は、長寿命でありながらも、国内最高クラスの出力を併せ持っております。さらにソーリンググループ独自の心不全をモニタリングする機能や、最適な心臓再同期療法を可能とする機能を有していることから、患者様にとってより高い付加価値を提供できるものと考えております。

これらの「PARADYM CRT」の商品優位性に加え、当社では、過去に旧来メーカーのCRT-Dを販売していた実績もありますので、後発ではありますが成長過程にあるCRT-D市場において一定のシェアを確保できるものと見込んでおります。



ソーリンググループ製としては国内初となるCRT-D  
「PARADYM(パラダイム) CRT」

### Q- 通期の見通しはいかがでしょうか？

A 通期の見通しといたしましては、上期に想定を大幅に上回ったEPカテーテルをはじめ、増産の進む人工血管や、新商品が好調なバルーンカテーテルなどが下期業績を牽引する見通しであることから、売上高はほぼ前年と同じ水準を維持するものと考えております。

利益面につきましては、下期も自社製品が引き続き堅調に推移する見通しであることから、売上総利益率の向上を見込んでおります。また、販売費及び一般管理費につきましては、上期に執行されなかった経費予算の一部を下期に繰り越すとともに、新たにアジアを中心とした海外における事業展開のための準備費用を計上しております。

なお、来年2月には、人工血管の新工場が稼働を予定しておりますので、医療現場からの需要に安定的に対応可能な供給基盤が確立できるものと考えております。さらに、中国での本格的な事業展開に向けた第一歩として、本年11月に上海の現地事務所を開設いたしました。来期には中国市場でのEPカテーテルの上市を予定しており、自社製品の海外への販路拡大を図ってまいります。

以上により、通期の業績見通しといたしましては、売上高は221億4千3百万円、営業利益は8億9千万円、経常利益は9億7千6百万円、四半期純利益は3億4千5百万円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# Topics

## JUNKEN MEDICAL市原工場 完成 ～人工血管の供給体制を強化～

当社の連結子会社であるJUNKEN MEDICAL株式会社が千葉県市原市に建設を進めておりました人工血管の新工場が完成し12月1日に竣工式を行いました。現在、平成23年2月の稼働開始を目指して準備を進めております。

JUNKEN MEDICALで製造する人工血管『J Graft』は、昨年4月から当社で販売を開始し、医療機関から高い評価をいただいております。しかしながら、これまでの生産体制では需要に十分対応できていなかったことから、新工場の建設に着手しておりました。

市原工場の本格稼働により、人工血管の生産能力は従来に比べて3倍程度に増強されますので、安定的に製品の供給を行うとともに、新たな販路拡大に向けた取り組みを行ってまいります。



**JUN-KEN MEDICAL**  
JAPAN LIFELINE GROUP

JUNKEN MEDICAL市原工場

所在地：千葉県市原市

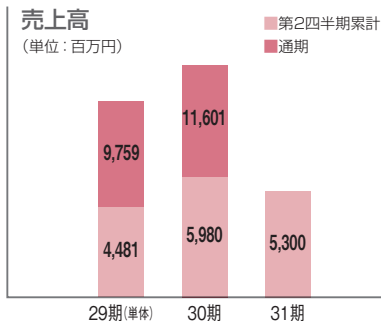
敷地面積：4,857.78㎡

延床面積：3,462.91㎡

## リズムデバイス

### 主要取扱品目

- 心臓ペースメーカー
- ICD(植込み型除細動器)
- ホルター心電計



心臓ペースメーカーにおきましては、売上数量ベースでは概ね前年同期と同水準で推移しましたものの、保険償還価格下落による影響を受け、売上高は前年同期を下回る結果となりました。また、ICD(植込み型除細動器)におきましては、本年7月に新商品「PARADYM(パラダイム)」を発売し、国内最高クラスの高出力と電池寿命を実現しながらもコンパクトであるという同商品の特長を訴求し、拡販を行った結果、販売数量は前年同期に比べ11.6%増加しました。

以上の結果、リズムデバイスの売上高は53億円(前年同期比11.4%減)となりました。

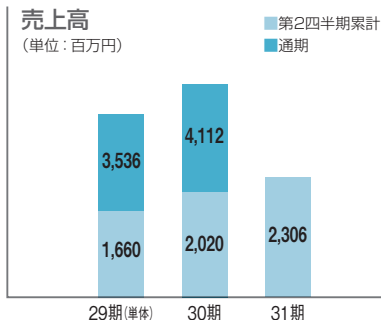


心臓ペースメーカー

## EP/アブレーション

### 主要取扱品目

- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 高周波発生装置



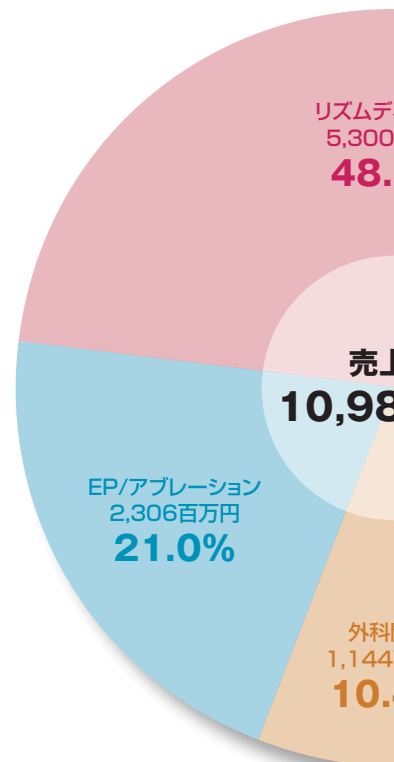
EP/アブレーションにおきましては、アブレーションカテーテルにおける競争の激化が見込まれるなか、EP(電気生理用)カテーテルの拡販に注力しました。その結果、EPカテーテルの売上高は前年同期を39.9%上回りました。

また、アブレーションカテーテルにつきましても、保険償還価格の引き下げはありましたものの、売上数量は堅調に推移し、前年同期水準を維持しました。



EP(電気生理用)カテーテル

以上の結果、EP/アブレーションの売上高は23億6百万円(前年同期比14.2%増)となりました。



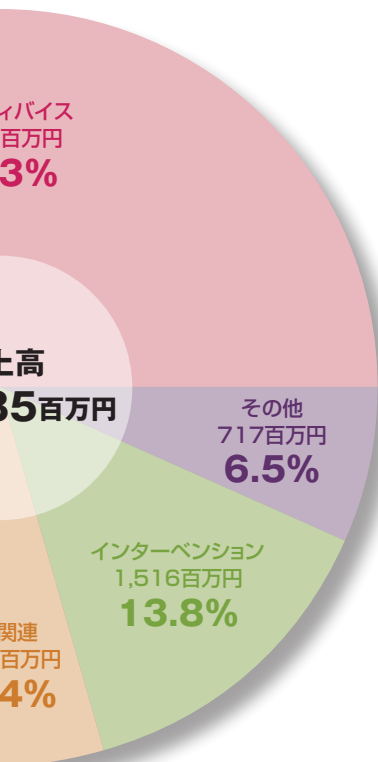
## その他

### 主要取扱品目

- 血液浄化関連商品

連結子会社にて取り扱っております血液浄化装置の売上高の減少により、その他の売上高は7億1千7百万円(前年同期比5.1%減)となりました。

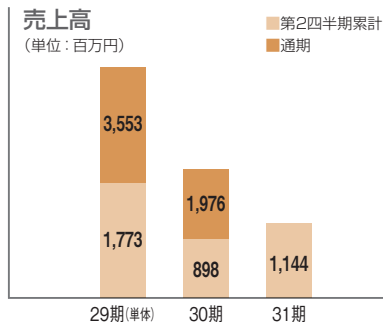
※第30期より連結損益計算書を作成しております。



## 外科関連

### 主要取扱品目

- 人工血管
- 人工心臓弁
- 人工弁付血管
- 人工肺



人工血管におきましては、子会社で製造している「J Graft(ジェイ・グラフト)」の増産により、市場への供給量が増加してきていることから、売上高は前年同期を89.4%上回る結果となりました。人工心臓弁につきましては、市場動向が当社で取り扱っております機械弁から生体弁へと変化してきている影響もあり、売上高は前年同期を7.5%下回る結果となりました。

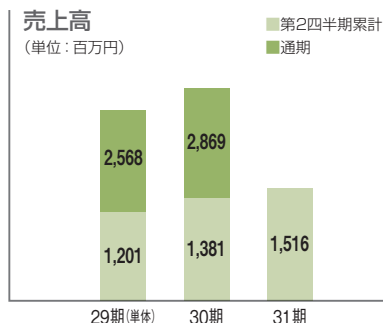
以上の結果、外科関連の売上高は11億4千4百万円(前年同期比27.4%増)となりました。



## インターベンション

### 主要取扱品目

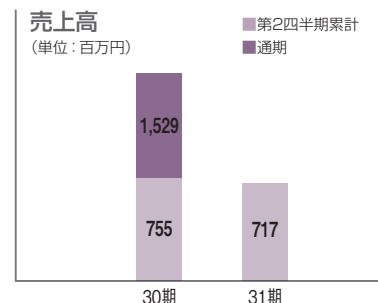
- P T C A バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 心房中隔欠損閉鎖器具



バルーンカテーテルにおきましては、新商品である「LIFESPEAR(ライフスピーア)」が引き続き好調に推移した結果、前年同期に比べ、売上高は12.9%増加しました。またガイドワイヤーにおきましては、売上数量は増加したものの保険償還価格の引き下げの影響により、売上高は微増に留まりました。

構造的心疾患領域の商品であるアンブラッツァーにつきましては、昨年7月に販売を開始した動脈管開存閉鎖器具「AMPLATZER Duct Occluder(アンブラッツァー・ダクト・オクルーダー)」の伸長が寄与し、アンブラッツァー全体の売上高は前年同期に比べ18.7%増加しました。

以上の結果、インターベンションの売上高は15億1千6百万円(前年同期比9.8%増)となりました。



## 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	31期(当第2四半期) 平成22年9月30日現在	30期(前第2四半期) 平成21年9月30日現在	30期(前期) 平成22年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	16,810	17,284	17,517
●現金及び預金	2,373	2,711	3,239
受取手形及び売掛金	6,706	6,490	6,498
たな卸資産	6,426	6,495	6,412
その他の流動資産	1,304	1,586	1,367
固定資産	5,861	4,777	4,725
●有形固定資産	2,471	969	1,151
無形固定資産	56	66	64
投資その他の資産	3,333	3,740	3,508
資産合計	22,672	22,061	22,242
<b>負債の部</b>			
流動負債	5,298	5,288	5,403
支払手形及び買掛金	1,515	1,645	1,229
短期借入金	1,970	1,800	1,970
●その他の流動負債	1,813	1,842	2,204
●固定負債	3,131	2,765	2,646
負債合計	8,430	8,053	8,050
<b>純資産の部</b>			
株主資本	14,246	14,020	14,189
●資本金	2,115	2,115	2,115
資本剰余金	2,328	2,328	2,328
利益剰余金	10,154	9,928	10,097
自己株式	△351	△351	△351
評価・換算差額等	△4	△12	2
●その他有価証券評価差額金	△4	△12	2
純資産合計	14,241	14,008	14,191
負債純資産合計	22,672	22,061	22,242

### ●現金及び預金・有形固定資産

新工場用地(埼玉県戸田市)を取得したこと等により、現金及び預金は前期末に比べ8億6千6百万円減少し、有形固定資産は前期末に比べ13億1千9百万円増加いたしました。

### ●その他の流動負債

未払法人税等が2億9千3百万円、賞与引当金(未払賞与を含む)が1億4千9百万円減少したこと等により、その他の流動負債は前期末に比べ3億9千万円減少いたしました。

### ●固定負債

役員退職慰労引当金が1億8千8百万円減少した一方で、長期借入金が6億7百万円増加したこと等により、固定負債は前期末に比べ4億8千5百万円増加いたしました。



# Consolidated Financial Statements

## 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

### ●営業利益

保険償還価格の引き下げにより売上高が減少したことに加え、改定前の保険償還価格に基づき仕入れた原価の高い商品在庫が存在することなどから売上総利益率が低下した結果、営業利益は5億4千4百万円となりました。

### ●四半期(当期)純利益

特別利益として役員退職慰労引当金戻入益等を1億1千3百万円計上するとともに、特別損失として資産除去債務費用等を3千5百万円計上した結果、四半期純利益は3億2千6百万円となりました。

科 目	31期(当第2四半期累計) 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	30期(前第2四半期累計) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	30期(前期) 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	10,985	11,036	22,089
売上原価	5,737	5,592	11,024
売上総利益	5,248	5,444	11,065
販売費及び一般管理費	4,703	4,705	9,746
●営業利益	544	738	1,319
営業外収益	92	76	147
営業外費用	12	20	42
経常利益	625	794	1,423
特別利益	113	3	4
特別損失	35	15	214
税金等調整前四半期(当期)純利益	702	782	1,213
法人税等	375	388	650
●四半期(当期)純利益	326	394	562

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

### ●投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が14億1千9百万円となったこと等により、前年同期に比べ10億6千3百万円支出が増加し、14億2百万円の支出となりました。

### ●財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入による収入が7億5千万円であったこと等により、4億5千6百万円の収入(前年同期は2億7千4百万円の支出)となりました。

科 目	31期(当第2四半期累計) 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	30期(前第2四半期累計) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	30期(前期) 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	80	147	611
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,402	△339	△736
●財務活動によるキャッシュ・フロー	456	△274	△113
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△865	△466	△238
現金及び現金同等物の期首残高	3,644	3,882	3,882
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	2,778	3,416	3,644

## 会社概要

(平成22年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結523名 単体461名
上場	大阪証券取引所 JASDAQ市場
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社

## 役員

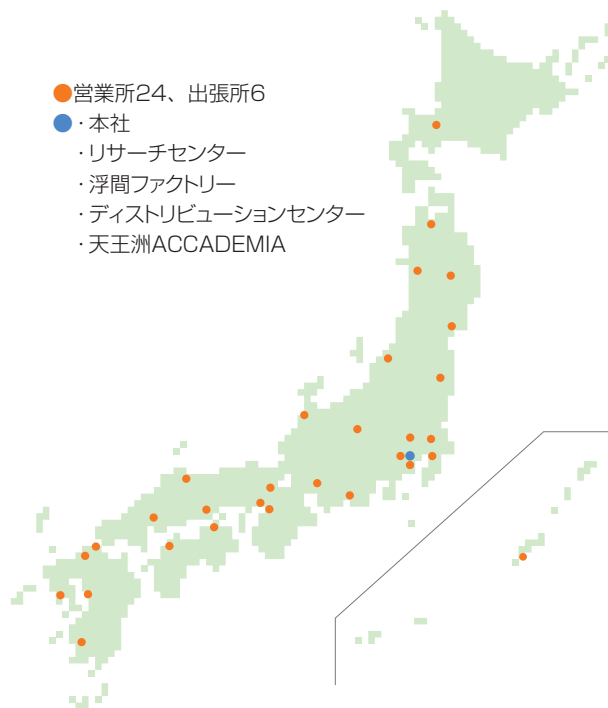
(平成22年9月30日現在)

代表取締役会長 増本 武司	常勤監査役 上田 勝啓
代表取締役社長 鈴木 啓介	監査役 塩谷 睦夫
常務取締役 鈴木 厚宏	監査役 中根 堅次郎
常務取締役 政次 浩二	監査役 苅米 裕
取締役 長濱 岳司	
取締役 黒沼 孝之	
取締役 一青 英雄	

## 事業所

(平成22年10月1日現在)

- 営業所24、出張所6
- 本社
  - ・リサーチセンター
  - ・浮間ファクトリー
  - ・ディストリビューションセンター
  - ・天王洲ACCADEMIA



●最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください。

<http://www.jll.co.jp>



投資家情報メールマガジン “IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は、当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



モバイル版IRサイト <http://m-ir.jp/c/7575>

携帯電話からも当社のIR情報をご覧ください。また、ニュースの更新をメールでお知らせする機能もございます。



※i-mode、EZweb、Yahoo!ケータイ対応の携帯電話からご利用可能です。  
※本サイト利用にあたり、情報料等は発生いたしません、通信料は利用される方のご負担となります。

## 株式の状況

(平成22年9月30日現在)

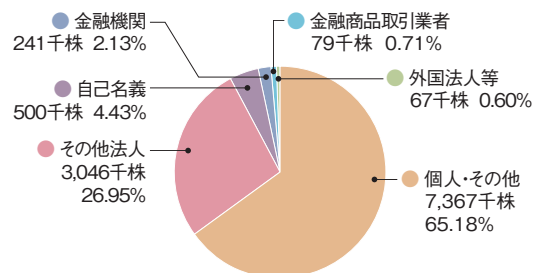
会社が発行する株式の総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,515名

## 大株主

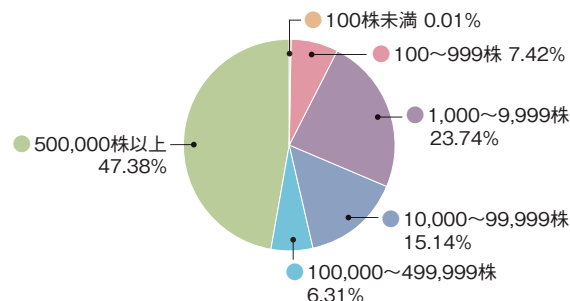
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	2,870	26.57
鈴木啓介	1,427	13.21
増本武司	557	5.16
日本ライフライン従業員持株会	140	1.30
上田勝啓	134	1.24
長濱岳司	116	1.07
加藤力蔵	113	1.05
朝日火災海上保険株式会社	110	1.02
日本生命保険相互会社	100	0.93
横山慎一	85	0.79

(注) 1. 上位10名に記載していない500,349株を、自己株式として保有しております。  
 2. 持株比率は、自己株式(500,349株)を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布

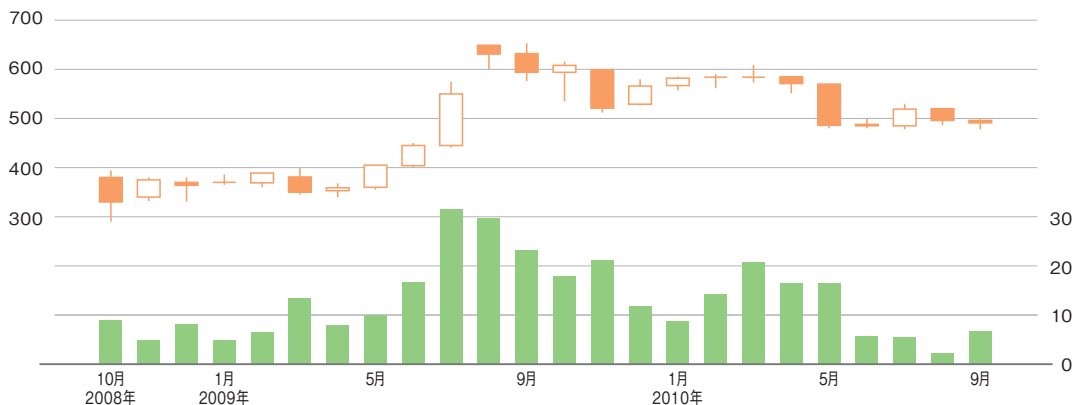


## 所有数別株式分布



## 株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.jll.co.jp">http://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711(通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

### 【株式に関する住所変更等の届出およびご照会について】

#### 1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

- ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様  
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

#### 2.未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

## JLL 日本ライフライン 株式会社

〒140-0002

東京都品川区東品川二丁目2番20号

電話 03-6711-5200

URL <http://www.jll.co.jp>

